

「不足」の可算性：SHORTAGEとLACK— 1 —

Countability of SHORTAGE and LACK (1)

日 木 満

1 はじめに

1. 1 問題の背景

英語でも日本語でも、書いたり話したりするとき、われわれはおびただしい数の名詞を使う。しかし、英語の場合は日本語と違い、名詞をそのまま使えばよいというのではなく、状況に合った可算性を選択するという作業が必要になる。この名詞の可算性の選択は（冠詞の選択と共に）英語において最も基本的な文法概念の一つであると思われるが、残念ながら筆者にとって、適当な可算性を選択することは必ずしも容易なことではなく、具体的にどのような名詞がどのような状況で使われるときに本当にむずかしいのか、そして、なぜむずかしいとを感じるのか、という点に関して非常に曖昧な知識しかないまま現在に至った。

一口にむずかしさといっても色々なレベルがあろうが、非常に大ざっぱな言い方をすると、調べればわかるものと調べてもわからないもの、の2種類があるように思われる。ここでの筆者の関心は後者のほうで、辞書や参考書などを調べても確信を持って可算性の判断ができないむずかしさである。調べてもわからないといった場合、ただ単に筆者の調べ方が悪いだけの可能性も十分あるが、筆者がむずかしさを感じた根拠を明らかにすることによって、その点についての批判を請いたい。現時点での筆者の知識を基に、筆者からみて調べてもわからないむずかしさとは一体どういうことなのかを明らかにすることによって、問題点を整理し、可算性習得上のむずかしさの本質を探る一歩にできればと考えている。

1. 2 研究課題

本稿ではどのような状況でむずかしいのかという点の議論を深めるために、どのような名詞がの部分限定する。取り扱う名詞としては、日本語の「不足／欠如」に概ね相当するSHORTAGEとLACKの2語とする。さらに、水（の）不足、資金（の）不足、睡眠（の）不足、などの表現で、水、資金、睡眠などのような「不足しているもの」が明示されている場合に限定する。なお、この「不足しているもの」を本稿ではXと呼ぶ。つまり、本稿の研究課題は次の2点である。

1) 筆者がSHORTAGEもしくはLACKを使って「Xの不足」と文中で表現する際に、SHORTAGEもしくはLACKの可算性の判断がむずかしいと感じるのはなぜなのかを明らかにすること。

2) 1の結果を踏まえて、SHORTAGEもしくはLACKの可算性を決定する要因は何かを明らかにすること。

本研究で、あえてSHORTAGEとLACKのような意味の近い名詞を選んだ理由は、小寺（1995）が指摘しているように、いわゆる抽象名詞のなかでも特に同意語の関係にある名詞の可算性については意味から推測しようとしても必ずしもうまくいかない場合があり、そのことが、名詞の可算性の判断をむずかしくしている一つの要因になっているのではないかと常々感じているからである。

本稿は二部編成で、第一部では辞書およびコーパスから得られる情報を基に、課題1を扱い、第二部では第一部の結果を踏まえた上で、英語の母国語話者から得られる情報を基に、課題2の考察を試みたい。

1. 3 定義と表記

本稿で可算性とは(1)「不可算」、(2)「可算・単数」（以下は「単数」と省略）、(3)「可算・複数」（以下は「複数」と省略）の3項対立の概念とし、名詞を文脈のなかで使用する際に、そのうちのどれかの可算性を選択使用することによって、その名詞の意味の差異化をはかる機能をもつとの前提に立つ。可算性の選択がされていない段階の名詞をSHORTAGEのように大文字で表記し、可算性の選択がされた名詞（可算性つき名詞）は小文字で \emptyset shortage（不可算）、a shortage（単数）、 \emptyset shortages（複数）のように表記する。なお、名詞一般の可算性表記としてN(Noun)を用い、不可算、単数、複数をそれぞれ [\emptyset N], [aN], [\emptyset Ns] のように表記する。

なお、以下において辞書やコーパスから引用した例文中の太字、および下線は原則として筆者が付したものである。

2 学習者用辞書と可算性の記述

名詞の可算性をどれにしてよいかわからない、もしくは自信がなくて確認したい、といった場合、われわれはどのようなことができるであろうか。おそらく、一番安心できる（と思う）のは、英語の母国語話者（以下、「母国語話者」と省略）に、自分の表現したい文脈ごと見せて（聞いてもらって）判断を求めることであろう。しかし、一般には自信のもてないものを片っ端からすべて聞くことは到底無理な相談である。よほど恵まれた環境にいる人を除けば、一般の学習者が、他に自分でできることといえば、UやCなどの可算性についての記述がある辞書をひくことであろう。そこで、本稿ではまず、辞書の情報では問題の名詞がどのように記述されているのかを見ていくことにする。

本稿で参考にした辞書は可算性の記述があるものの中から選んだ英英辞典5種と英和辞典3種の計8種類の辞書である。また、それぞれの辞書は可算性の記述について必ずしも同じ記号を使用しているわけではないので、表1に辞書名と使用記号を並記する。

表1 辞書と可算性表記

1. Longman Dictionary of Contemporary English (第3版) (以下略してLDOCE)
 - [C] (countable)
 - [U] (uncountable)
 - [singular]
 - [plural]
2. Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English (第5版) (以下略してOALD)
 - [C] (countable nouns),
 - [U] (uncountable nouns)
3. Collings Cobuild English Dictionary (第2版) (以下略してCOBUILD)
 - N-COUNT (count noun)
 - N-UNCOUNT (uncount noun)
 - N-VAR² (variable noun)
4. the Cambridge International Dictionary of English (初版) (以下略してCIDE)
 - [C] (countable noun)
 - [U] uncountable noun
 - pl n (plural nouns)
 - [usually sing]
 - [usually pl]
5. Random House Webster's Dictionary of American English (初版) (以下略してRHWD)
 - [count]
 - [noncount]
6. 三省堂ニューセンチュリー英和辞典 (初版) (以下略してSN)
 - <C>
 - <U>
 - <aU>: Uの性質を持ち複数形では用いないが、a, anを付けることがある。
 - <UC>: UとCの両方の用い方がある。
 - <C> (単数形で): <C>の名詞であるが、このときは単数形でしか用いられない。
7. 大修館・Genius英和中辞典 (第2版) (以下略してTG)
 - C (countable)
 - U (uncountable)
 - [a ~]
 - [~s]
 - [the ~s]
8. 研究社・新英和中辞典 (第6版) (以下略してKS)
 - C (countable)
 - U (uncountable)
 - [a ~]
 - [単数形で]
 - [複数形で]

不可算を表わす記号としてはU (uncount, uncountable), N-UNCOUNT, noncountが、また、可算（単数・複数を含む）を表わす記号としてはC (count, uncountable), N-COUNT, countの3種類が見られるが、本稿では最も多くの辞書によって使用されているUとCをそれぞれ採用することにする。

UもしくはCのどちらかという二者択一的記述以外にも、さまざまな可算性の組み合わせの可能性がある。まず、UにもCにもなる場合には、N-VARという記号をその目的で作ったCOBUILD以外は、UCもしくはCUのようにCとUを並記している。また、Cでも、単数のみ可の場合には[singular]、[usually sing]、<C>（単数形で）、[a ~]、[単数形で]の記述が、複数のみ可の場合には[plural]、[usually pl]、[~ s]、[複数形で]の記述がそれぞれ使われている。さらに、不可算と単数の組み合わせ（つまり、[ø N]と[a N]は可だが、[øNs]は不可）を表わすために、SNが<aU>という記述を使っている。

以下、SHORTAGEとLACKを順にみていく。

3 SHORTAGEの分析

3.1.1 SHORTAGEの辞書記述

表2はSHORTAGEについての各辞書の記述をまとめたものである。表2では可算性についての各辞書の分類をわかりやすくするために、不可算(U)と可算(C)の列に区分けし、どちらかの記述がなされている場合はそちらの列のセルに記入した。UとCが並記してあったり、どちらかの認定が不明確な場合はUとCの列を無視し両方にまたがるかたちで記入した。

表2からまず目につくことは、LDOCEをはじめとする6種が何らかの方法でCとUが並記している(COBUILDのN-VARも含める)のに対して、CIDEとRHWDだけは、Cのみとしている点である。つまり、辞書によって同一名詞の可算性の記述が異なっているわけで、多少困惑してしまう。どちらの辞書が正しいのか。Cだけだという辞書と、CもUもあるという辞書があった場合、筆者の心理としては、Uの例文が提示してあればCだけと言い切る方に無理があると考えてしまいたくなる。

そこで、C、U並記してある辞書の例文の中からUの例文を探してみると、不思議なことに、決定的といえるUの例文が以外に少ないことに気付く。つまり、Uの例文とみなせる可能性のあるものとしては次の3例だけしかみあたらない。

- Vietnam is suffering from food **shortage** ... (COBUILD)
- The shop was forced to close owing to (a) **shortage** of staff. (OALD)
- (a) **shortage** of petroleum (SN)

しかも、このうち2例は単数を示すaがオプション、つまり、単数でも不可算でもどちらでも良いということで、不可算でなければならないという積極的な例とはいえない。そうすると、唯一、不可算の積極的な例は1つということになる。6種の辞書がC、U並記しているにもかかわらず、Uの例文が1つとなると、はたしてUはどの程度一般的なのか不安になる。

表2 SHORTAGEの辞書記述

辞書*	U	C
LDOCE	[C, U] a situation in which there is not enough of something that people need: [+ of] a shortage of skilled labour water/gasoline/bread etc shortage water shortages in the summer	
OALD	[C, U] a lack of sth needed: food/fuel/housing shortages a shortage of rice/funds/equipment The shop was forced to close owing to (a) shortage of staff. There was no shortage of helpers.	
COBUILD	N-VAR: usu with supp, N of n, n N If there is a shortage of something, there is not enough of it. A shortage of funds is preventing the UN from monitoring relief ... Vietnam is suffering from food shortage ... There's no shortage of ideas when it comes to improving the education of children.	
CIDE		[C] If there is a shortage in a supply of something, there is not enough of it. Relief workers are concerned at the shortage of food and shelter in the refugee camps. The long hot summer has led to serious water shortages.
RHWD		[count] 1. the condition or stage of not having enough; deficiency: a shortage of cash. 2. the amount of such deficiency: a shortage of fifty dollars.
SN	〈UC〉 不足, 欠乏; 不足高. a housing shortage 住宅難/(a) shortage of petroleum 石油不足/a shortage of ten tons 10トンの不足高.	
TG	UC 不足; 不足高Ⅱ There was a shortage of water in the mountains after the hot summer. 暑い夏のあと山間部では水不足をきたした.	
KS	U [具体的にはC] 不足, 払底 [of]. a housing shortage 住宅難 [不足] a shortage of food [housing] 食料 [住宅] 不足 The shortage of energy is the problem. エネルギー不足が問題だ.	

*辞書名(略名)については表1を参照。

このUの例文が少ないという点と密接に関連するさらに重要で深刻な問題点は、CとUとの使い分けに関する情報が乏しいということである。つまり、どういうときにCを、どういうときにUを使うのが辞書の記述からは容易に見えてこない。唯一、KSにU [具体的にはC] という記述があるが、「具体的でない」Uの例が提示されているわけではなく、結果的に筆者には肝心の「具体的には」の意味がよくわからない。他の5種は使い分けについての説明は全くない。

表2からわかるもう一つ重要な点は、SHORTAGEがとる名詞の構造である。この点についてはCOBUILDが的を得た指摘をしている。つまり、「Xの不足」というときに、a shortage of waterのような [SHORTAGE of X] の構造と、water shortagesのような [X SHORTAGE] の構造の2つをとるということである (COBUILDではここでいうXがnになっている)。事実、表2中のすべての例文はこの2つの構造のどちらかである。そこで次に、この2つの構造別にSHORTAGEの可算性をみていくことにする。

3. 1. 2 [SHORTAGE of X] の構造

まず、[SHORTAGE of X] の構造の例文の中から、可算性が明確な例文のみ (つまり、[∅ N], [a N], [∅ Ns] の条件に合う文のみ) を選別し、可算性別に並べたものが表3である。(上の表2の例文には名詞 (SHORTAGE) とthe, no, 所有格、等の限定詞が共起している場合があるが、筆者にはそれらの場合の可算性の断定が難しいので、本稿では対象外とした。)

表3 [SHORTAGE of X] の構造におけるSHORTAGEの可算性

可算性	例文
[∅ N]	@*The shop was forced to close owing to (a) shortage of staff. (OALD) @ (a) shortage of petroleum (SN)
[a N]	A shortage of funds is preventing the UN from monitoring relief ... (COBUILD) If there is a shortage of something, there is not enough of it. (COBUILD) There was a shortage of water in the mountains after the hot summer. (TG) If there is a shortage in a supply of something, there is not enough of it. (CIDE) @ The shop was forced to close owing to (a) shortage of staff. (OALD) @ (a) shortage of petroleum (SN) a shortage of skilled labour (LDOCE) a shortage of rice/funds/equipment (OALD) a shortage of cash (RHWD) a shortage of food [housing] (KS) a shortage of fifty dollars. (RHWD) a shortage of ten tons (SN)
[∅ Ns]	例文なし

*@印付きの例文はaがオプショナルとされるため、不可算と単数の両方の例文として用いた。

表3をみると、単数 [a N] の例がほとんどで、他には、aが括弧づき、つまりaがオプシ

ナルとなる例が2例あるだけで、複数はない。

表3のデータから、SHORTAGEの可算性についてどのような一般化ができるであろうか。厳密にいうと、「[SHORTAGE of X] の構造ではSHORTAGEを単数にすることは可能³、不可算にすることは可能な場合もあるが単数ほど一般的かどうかは不明、さらに、複数是不明」ということになる。そして、筆者の場合だと、大ざっぱな捉え方として、[SHORTAGE of X] の構造ではSHORTAGEを単数にするのが最も無難」というような初期仮説に落ち着くことになる。そうすると少なくとも [SHORTAGE of X] の構造に関する限り、Cのみとした2種類の辞書の記述はそう不正確とは言えないようにも思えてくる。

表3の例文を詳しく検討すると、さまざまな疑問が浮かんでくる。それらを以下に列挙してみる。

疑問1：aがオプショナルのときの不可算 [ø shortage of X] と単数 [a shortage of X] の意味の違いは何か。

例えば、The shop was forced to close owing to (a) shortage of staff. (OALD)でaがないときとあるときの意味やニュアンスの違いはあるのか、もしあるならその意味・ニュアンスの違いは何か。

疑問2：他の単数の例文ではaはオプショナルにはならないのか。

例えば、A shortage of funds is preventing the UN from monitoring relief ... (COBUILD)やThere was a shortage of water in the mountains after the hot summer. (TG)ではaは括弧つきでないで、一般には単数にすべき例と解釈されるであろうが、The shop was forced to close owing to (a) shortage of staff. (OALD)ではaが括弧つきとなると、はたしてこれら単数の例は本当に単数でないダメなのか、それとも不可算でも可能なのか、そのあたりがわからなくなってくる。また、(a) shortage of petroleum (SN)ではオプショナルになっているが、a shortage of skilled labour (LDOCE)や、a shortage of cash (RHWD)など、他の例ではオプショナルになっていない。もっとも、この場合は文の例ではなく語句の例なので、文脈が与えられていないため、この問いそのものがあまり意味のないことかもしれない。しかし、それでも、同じ語句の例でありながら、あえて(a) shortage of petroleum (SN)だけがオプショナルとなっているのはなぜなのか、その理由は知りたい。

疑問3：不可算 [ø shortage of X] でないといけない例はないのか。

表3の例ではaが括弧つきとなっているため、aがなくても良いという意味にとれるわけだが、aがついてはいけない例、つまり、不可算でなければならない例というのはないのか。もしあるなら、それはどのような状況のどういう例文か。

疑問4：複数 [ø shortages of X] の例はないのか。

表3には複数の例はなしとなっている。しかし、辞書に例文がないからといって、不可能ということでは決してないわけで、調べた辞書の情報からでは複数があるか否かは不明である。普通、Cの記述がされていて特にSingularとなっていなければ、単数と複数の両方が可

能であるはずである。実際、表2を見ると、The long hot summer has led to serious water shortages. (CIDE)のように、[X SHORTAGE] の構造では複数の例文がある。辞書の情報からではこのような疑問が解決されず、筆者の場合、結局SHORTAGEの可算性はよくわからないまま、最も無難と思われる単数を使うという安全策にでることになる。次に、もう一方の構造におけるSHORTAGEの可算性をみることにする。

3. 1. 3 [X SHORTAGE] の構造

表4は表2の例文の中から[X SHORTAGE] の構造をとるもので、可算性が明確な例文のみを選別し、可算性別に並べたものである。

表4 [X SHORTAGE] の構造におけるSHORTAGEの可算性

可算性	例文
[∅ N] ⁴	Vietnam is suffering from food shortage ... (COBUILD)
[a N]	a housing shortage (SN) a housing shortage (KS)
[∅ Ns]	water shortages in the summer (LDOCE) food/fuel/housing shortages (OALD) The long hot summer has led to serious water shortages. (CIDE)

表4のデータは[X SHORTAGE] の構造では、3つの可算性すべてが可能であることを示唆する。しかも、ここでの不可算の例(Vietnam is suffering from food shortage ... (COBUILD))は上で見た[SHORTAGE of X] の例とは異なり、aがなくてもよいという意味での不可算とは違うので、積極的な不可算の例と解釈できる。もし、この不可算の例が一般的なものであるならば、SHORTAGEをCのみとした辞書はやはり偏った情報ということになる。

表4から生じる疑問は次のように集約できる。

疑問5：[∅ X shortage], [a X shortage], [∅ X shortages] の違いは何か。

[X SHORTAGE] の構造を使って、「Xの不足」というときに、どういうときに不可算を使い、どういうときに単数を使い、またさらに、どういうときに複数を使うのであろうか。

表5の例でいえば、food shortage (COBUILD)とfood shortages (OALD)ではどう違うのか。a housing shortage (SN, KS)とhousing shortages (OALD)では何が異なるのか。

これらの疑問は少なくとも今まで見てきた辞書の例文からではどうも解決しそうにない。しかも、上でみたように[SHORTAGE of X] の場合は、単数にしておけばまず大丈夫という淡い安心感を持てたが、この[X SHORTAGE] の場合は、不可算、単数、複数、それぞれ独自の例があるので、3者択一の判断をしなければならず、それだけむずかしさが感じられる。

以上、辞書の記述の分析から、SHORTAGEには2つの構造があること、そして、2つの構造

で微妙に可算性の選択の余地が異なる可能性があることがわかったが、同時に多くの疑問も未解決のまま残ることになった。次に、コーパスデータからSHORTAGEの可算性について分析を試みる。

3.2 SHORTAGEのコーパスデータ分析

コーパスデータとしてはthe Los Angeles Timesの1995年度版のコーパスデータ（以下、「LATデータ」と呼ぶ）を利用した。検索の方法としては、検索語を含む文脈が表示されるKey Word in Contextを使用した。“shortage”による検索総文脈数は663件、“shortages”は291件であった。ただし、一つの文脈の中に2つ以上のSHORTAGEの例文がある場合もあったため、例文の数は文脈の数を上回っている。分析の上で関連のあるSHORTAGEの例文数については逐次提示する。

以下、SHORTAGEの構造別に見ていく。

3.2.1 [SHORTAGE of X] の構造

まず、LATデータから“shortage”および“shortages”で検索したものの中から [∅ shortage of X]、[a shortage of X]、[∅ shortages of X] の構造をもつものを抽出した。その中には、原則としてSHORTAGEに形容詞がついているものも含めた。該当した総数は315件で、不可算 [∅ shortage of X] が11件、単数 [a shortage of X] が258件、複数 [shortages of X] が46件であった⁵（表5）。

表5 LATデータにおける [SHORTAGE of X] 構造の可算性別頻度

可算性	件数と割合
不可算 [∅ shortage of X]	11 (3.5%)
単数 [a shortage of X]	258 (81.9%)
複数 [∅ shortages of X]	46 (14.6%)
計	315 (100%)

表5の内容からまず目につくことは単数が圧倒的に多いという点である。これは上記の「単数が無難」とする辞書データを基にした大ざっぱな一般化をある程度支持していると言えよう。次に気付くのは、不可算の少なさである。上で見たように、8種類中6種類もの辞書が何らかの形でUもあるとしていることを考慮すると、不可算の件数が315件中11件とは極端に少ないと言えよう。しかも、実際の英文に当たってみると、そのうちの約半数の6件はSchools Hurt by Shortage of CounselorsやFoothill Parents Balk at Shortage of Playing Fieldsのように新聞の見出しと思われるものであった。新聞等の見出しで冠詞が省略されることは一般に指摘されているところであり（Quirk, Greenbaum, Leech, & Svartvik, 1985；Berry, 1993；正保, 1996、他）、

一般にはこれらの省略用法は不可算の例とはみなさないように思われる。また、別の1例は、Deputy City Atty. Ruth Kwan said the majority of cases could not be prosecuted for various reasons, ranging from lack of evidence to **shortage** of staff.で、ranging from A to Bのいわゆるパラレル構文の1種で、やはり見出し同様、冠詞が省略される場合があることが指摘されている(Quirk, et al., 1985, 他)。そうなると、純粹に不可算の使用例となり得る可能性が残るのは4件⁶、つまりLATデータ中の[SHORTAGE of X]の全例文の1%程度(4/315)ということになる。この残る4件についても、はたして本当に不可算の使用例なのかは議論の余地があるが、いずれにしても、不可算の数は非常に少ないということがLATデータから判明したと言えよう。

この不可算の非常に低い使用頻度は筆者にとっては上記(3. 1. 2)の疑問1~3に関連して大変意味を持つものである。疑問点を再び書くと：

疑問1：aがオプショナルのときの不可算[\emptyset shortage of X]と単数[a shortage of X]の意味の違いは何か。

疑問2：他の単数の例文ではaはオプショナルにはならないのか。

疑問3：不可算[\emptyset shortage of X]でないといけない例はないのか。

これらの疑問はそもそも不可算の例がかなり存在することを前提にしていた。ところが、コーパスデータの結果、あっても1%程度となれば、その前提そのものを疑問視しなくてはならない。可算性選択の本質を知る上では、どんなに頻度が低くても、無視できない問題であるが、少なくとも、筆者が日頃感じていた可算性選択のむずかしさという観点からみると、いつ不可算を使うべきかという問題は考える必要がほとんどなくなったことになる。

もう一点、表5で注目すべき点は複数の46件である。辞書では複数の例文は皆無であったため、本当に複数として使用されるのかは不明であったが、単数の264件と比べるとはるかに少ないながらも、46件の使用例があったということは、複数も有り得るということで、上記(3. 1. 2)の疑問4には肯定的な答えが出たことになる。

しかし、このことは同時に新たな疑問を生むことになる。今、とりあえず不可算[\emptyset shortage of X]を例外的として無視すると、頻度の違いはあるにせよ、単数[a shortage of X]と複数[\emptyset shortages of X]の2つの表現が可能になることになる。そうなると、どういうときに単数を使い、どういうときに複数を使うのか、という至極当然な疑問が生じる。

そこで、単数と複数の違いを探るために、LATデータを分析してみたが、残念ながら筆者には決定的な違いを見出すことはできなかった。しかし、いくつか気になる点があったので、以下に記す。

まず、[SHORTAGE of X]のXの構造についてである。Xの部分に注目すると、SHORTAGE of fundsのようにXが1つの項目からなる場合と、SHORTAGE of food and fuelやSHORTAGE of food, medicine and other necessitiesのようにXが2項目以上の場合がある。Xの項目数の違いを表わすために、前者を[SHORTAGE of A]、後者を[SHORTAGE of A and B]と記述することになると、単数[a shortage of X]と複数[\emptyset shortages of X]では、[SHORTAGE of A]

と [SHORTAGE of A and B] の割合がかなり異なっていた。表 6 はその違いをまとめたものである。

表 6 LATデータにおけるXの項目数の違いとSHORTAGEの可算性

可算性	[SHORTAGE of A]	[SHORTAGE of A and B]	計
単数 [a shortage of X]	231	27	258
複数 [ø shortages of X]	26	20	46
計	257	47	304

単数 [a shortage of X] の場合、[SHORTAGE of A and B] の占める割合はわずか 1 割 (27/258) であるのに対し、複数 [ø shortages of X] の場合には 4 割強 (20/46) となっている。もちろん、この結果は非常に限られたデータを基にしているもので、一般化はできないが、少なくとも、「SHORTAGEは、Xが複数項目の場合、Xが単数項目の場合より、複数になる確率が高い」という可能性を示唆するもので、今後、母国語話者の可算性選択に影響を与える要因なのかどうか、検討してみる価値はあるのではないかと考えている。しかし、仮にXの項目数がSHORTAGEの可算性決定の一つの要因であるとしても、それで単数と複数の違いの全てを説明するものではないことは、表 6 のデータからだけでも明らかである。

次に、目に止まった点は、単数のデータの中に、「Xの不足のために／X不足が原因（理由）で」の意味の [because of SHORTAGE of X] および、[due to SHORTAGE of X] の構文が多かったことである。前者は32例、後者は5例で、これら2構文だけで単数データの14.3% (37/258) を占めた。複数のデータはそもそも全体数が少なかったわけだが (46例)、その中にはこれらの構文は1例も見当たらなかった。

気になった3点目は、SHORTAGEを実質上の主語にもつthere構文についてである。LATデータの中には計55例のTHERE構文 ([there BE SHORTAGE of X]) があったが、その内訳は単数 [there BE a shortage of X] が50例、複数 [there BE ø shortages of X] が5例であった。SHORTAGEが単数のTHERE構文は、この構文だけで、単数データの19.4% (50/258) を占めているのに対し、SHORTAGEが複数のTHERE構文は複数データの10.9% (5/46) で、割合的には半分となっている。しかも、上で議論したXの構造に注目すると、Xが2項目以上のケース ([SHORTAGE of A and B] タイプ) は複数に3例みられただけで、単数の50例には1例もみられなかった。つまり、「Xの構造」と「THERE構文」という2つの要因を兼ね合わせて考えると、THERE構文でXが1項目 ([there BE SHORTAGE of A]) の条件にあう例文52例中、96.2%にあたる50例において、SHORTAGEは単数になっていたことになる⁷。このことは、「Xが1項目」と「THERE構文」という条件が、どちらも絶対的でないにしても、SHORTAGEの可算性選択の上で、単数を選ぶ割合を高める要因になるのではないかという可能性を示唆するように思われる。

続いて、もう一つのSHORTAGEの構造を見ていくことにする。

3. 2. 2 [X SHORTAGE] の構造

表7はLATデータにみられた [ø X shortage], [a X shortage], [ø X shortages] の頻度をまとめたものである。

表7 LATデータにおける [X SHORTAGE] 構造の可算性別頻度

可算性	件数と割合
不可算 [ø X shortage]	19 (5.6%)
単数 [a X shortage]	138 (40.9%)
複数 [ø X shortages]	180 (53.4%)
計	337 (100%)

まず、不可算 [ø X shortage] からみていくと、わずか19例しかなかった。しかもその内15例は見出しの一部で、大文字となっていた。また、別の1例はパラレル構文での使用であった⁸。上で述べたように、一般にこれらは不可算の例とはみなさない。そうすると、不可算の例は、わずか3件⁹で、LATデータ中の [X SHORTAGE] の全例文337件の1%にも満たないということになる。この結果は、上記 (3.1.3) の疑問5、つまり、[ø X shortage], [a X shortage], [ø X shortages] の違いは何か、という疑問において、とりあえず不可算 [ø X shortage] は選択肢から除外してもさほど支障はないと筆者に思わせるもので、少なくともこの点については筆者がむずかしいと感じる必要性はなくなったと感ずる。

そうすると、[X SHORTAGE] の構造にまつわるむずかしさは、単数 [a X shortage] にするべきか、それとも複数 [ø X shortages] にするかの2者択一の問題になる。しかし、筆者は残念ながら、この肝心の両者の違い、使い分けの原則について、現時点で明確な答えを出せない状況にある。この点についても、第二部で母国語話者のデータの分析を交えて考察を進めたいと考えている。

3. 2. 3 [SHORTAGE of X] と [X SHORTAGE] の比較

上で、[SHORTAGE of X] と [X SHORTAGE] の2つの構造別に見てきたが、ここでは両者を比較してみたい。まず、LATデータにみられた可算性別頻度を比較すると表8のようになる。

表8 LATデータにおける [SHORTAGE of X] と [X SHORTAGE] 構造の可算性別頻度の比較

	[SHORTAGE of X]	[X SHORTAGE]	計
不可算 [ø N]	11	19	30
単数 [a N]	258	138	396
複数 [ø Ns]	46	180	226
計	315	337	652

まず、指摘すべき点は、2つの構造の総数652件のうち、[SHORTAGE of X] が315件 (48.3%)、[X SHORTAGE] が337件 (51.7%) とほぼ同数であるという点である。このことは、少なくともこのデータでは「Xの不足」という内容をSHORTAGEという名詞を使って表現する場合、[SHORTAGE of X] と [X SHORTAGE] の2つの構造がほぼ同じ頻度で使われていることを意味する。

表8から2つの構造の共通点といえることは、どちらの構造においても、SHORTAGEが不可算になる例が極端に少ないことである。不可算の例が辞書の例文だけでなく、LATデータにもほとんどないという結果を踏まえると、辞書の可算性記述でCのみとした2種類の辞書の方が、UとCを並記したものよりも実用的な情報を提供しているといえるかもしれない。いずれにせよ、少なくともこの研究でみたデータに関する限り、SHORTAGEは基本的に可算(C)とみなしたほうがよい名詞のように思われる。

一方、2つの構造の相違点は可算内での(つまり、単数と複数の間での)割合の違いである。[SHORTAGE of X] では8割以上を占めた単数が[X SHORTAGE] では4割程度にとどまり、逆に1割強しかなかった複数が[X SHORTAGE] では5割強を占めている。ここで筆者にとって特に興味深い点は、なぜ、この2つの構造において、複数の頻度ににこのような偏りが生じているのか、という問題である。残念ながら、現時点で筆者には疑問点として残るが、第二部で母国語話者のデータも検討して、再考したいと考えている。

なお、SHORTAGEの可算性の問題からは外れるが、[SHORTAGE of X] と [X SHORTAGE] の2つの構造がほぼ同じ頻度で使用されていることに関して生ずる疑問として、どういう時に[SHORTAGE of X]の構造を使い、どういう時に[X SHORTAGE]の構造を使うのか、という構文の使い分けの問題がある。この点について、Xの語数に注目してデータを分析してみると、表9のような結果が得られた。

表9 LATデータにおける [SHORTAGE of X] と [X SHORTAGE] のXの平均語数の比較

	[SHORTAGE of X]	[X SHORTAGE]	計
不可算 [ø N]	1.82	1.16	1.40
単数 [a N]	3.14	1.38	2.53
複数 [ø Ns]	4.76	1.25	1.96
計	3.33	1.30	2.28

[SHORTAGE of X] の構造では、Xの平均語数は3.33語であるのに対し、[X SHORTAGE] の構造でのそれは1.30語と、かなり歴然とした差がみられた。もちろん、[SHORTAGE of X] の文でもXが1語からなるものも多数あり、また、[X SHORTAGE] の文でもXが6語からなるという例もあり、絶対的なものではないが、少なくとも傾向としては、Xが長い場合には[SHORTAGE of X] の構文を使う可能性が高くなることをデータは示すように思われる。

以上で、SHORTAGEの分析は終え、以下、もう一方の名詞LACKの分析に移る。

4 LACKの分析

4. 1 LACKの辞書記述

表10はLACKについての各辞書の記述をまとめたものである。

表10 LACKの辞書記述

辞書*	U	C
LDOCE (3rd)	[singular, U] the state of not having something, or of not having enough of it: [+ of] Lack of vitamin B can produce a variety of symptoms. a complete/distinct/marked/total lack of Rosie was showing a marked lack of interest in her school work. for/through lack of (=because there is a lack of) new mums, exhausted through lack of sleep no lack of (=used when there is a lot of something) There was no lack of willing helpers.	
OALD (5th)	[U, sing] a state of being without or not having enough of sth that is needed: a lack of confidence/money/support The project was abandoned through (ie because of) lack of funds.	
COBUILD	1 N-UNCOUNT: also a N, usu N of n If there is a lack of something, there is not enough of it or it does not exist at all. Despite his lack of experience, he got the job ... The charges were dropped for lack of evidence ... He tricked his way into a job as a hospital doctor and killed a patient through lack of care ... There is a lack of people wanting to start up new businesses.	
	4 PHRASE:PHR n, usu v-link PHR, v PHR If you say there is no lack of something, you are emphasizing there is a great deal of it. He said there was no lack of things for them to talk about ... President Clinton displayed no lack of vigor when he began to speak.	
CIDE	[U] Her only problem is lack of confidence, Lack of sleep had made him irritable. We aren't having a holiday because of a lack of funds (=money). If he fails it won't be for/through lack of effort (=he has certainly tired).	
RHWD	1. absence of something needed or desirable; not enough of something needed or desired: [noncount]: There is no lack of talent on this team. [count] usually singular]: The team has a lack of skill.	
	2. [noncount] something missing or wanted: felt the lack of a steady income.	

表10 LACKの辞書記述(続き)

辞書	U	C
SN	1 <aU> 欠乏, 不足; 無いこと; 《of...の》。 an attitude showing a lack of sympathy 同情に欠ける態度/ Her husband has a total lack of common sense. 彼女の夫は全然常識を欠いている。 [類語] lack, want, need の順に, 欠けているものを補う必要性が強くなる。	
		2 (単数形で) 欠乏しているもの; 無いもの。 supply the lack 欠けているものを補う。
	for [from, through] lack of... が欠乏しているために; ...が無いために。I can't go abroad for lack of money. お金が無くて外国に行けない。 no lack of... が十分。We have no lack of food. 我々は食料には事欠かない [が十分に ある]。	
TG	1 U [or a ~] [(必要な・望ましい)ものが] 不足していること, 欠乏; 欠如 [of] 《◆「十分にはない」ことをいう。「まったくない」場合は absence)》(◇ [類] shortage, want) lack of friends [time, money, food] 友だち[時間, お金, 食物]が(ほとんど)ないこと/ We've had a poor crop for [from, through] lack of water. =(The [A]) lack of water has caused a poor crop. 水不足のために不作だった。	
		2 C 不足[欠乏]しているもの Generosity is one of the lacks in his personality. 寛大さは彼の性格に欠けているものの1つである。
KS	1 U [また a ~] [必要なもの, 望ましいものの] 欠乏, 不足, ないこと [of] 《★【類語】lackは必要なもの・欲しいものがまったくないか不十分であること; wantとneedはlackの意味に加えてそれを補う必要が差し迫っていること》。 lack of sleep [exercise] 睡眠[運動] 不足 We have no lack of fuel. 燃料には事欠かない。	
		2 C 不足[欠乏]するもの。 for [from] lack of... …がないために。 It cannot be discussed here for lack of space. それは紙面がないためここでは論じられない。

*辞書名(略名)については表1を参照。

8種の辞書を概観すると、ほとんどが不可算と単数としている。CIDEがUのみとしているが、なぜかその例文中には単数の例がみられる(We aren't having a holiday because of a lack of funds (=money).)。TGは2番目の語義をCとして、複数の例(Generosity is one of the lacks in his personality.)を挙げているが、本稿が対象としている「Xの不足」の型とは異なる(「X」の部分がない)。また、KSも2番目の語義をCとしているが、なぜか例文は不可算のものである。

このように多少不可解な部分が残るが、一般的な解釈としては、「Xの不足」という内容をLACKという名詞を使って表現しようとする場合、LACKの可算性は不可算か単数のどちらか

で、複数はないと、いうことになると思われる。

LACKのとり構造については、LDOC, COBUILD, SN, TR, KSが明記しているように、「Xの不足」に相当するすべての例文は [LACK of X] の構造をとっている。SHORTAGEと異なり、[X LACK] の構造の例文は辞書には見当たらない。

以上の辞書情報から、LACKの場合は [∅ lack of X] か [a lack of X] の二者択一の判断というとりあえずの結論に至る。

そこで、問題は不可算と単数の使い分けになるわけだが、辞書にはその点についての説明はない。そうすると、あとは例文から推測することになる。そこで次に例文を詳しくみていくことにする。

表11 [LACK of X] の構造におけるLACKの可算性

可算性	例文
[∅ N]	<p>#1. Lack of vitamin B can produce a variety of symptoms. (LDOCE)</p> <p>#2. Lack of sleep had made him irritable. (CIDE)</p> <p>#3. @The [A] lack of water has caused a poor crop. (TG)</p> <p>#4. Her only problem is lack of confidence. (CIDE)</p> <p>#5. The charges were dropped for lack of evidence ... (COBUILD)</p> <p>#6. I can't go abroad for lack of money. (SN)</p> <p>#7. It cannot be discussed here for lack of space. (KS)</p> <p>#8. If he fails it won't be for/through lack of effort (=he has certainly tired). (CIDE)</p> <p>#9. for/through lack of (=because there is a lack of) (LDOCE)</p> <p>#10. new mums, exhausted through lack of sleep (LDOCE)</p> <p>#11. He tricked his way into a job as a hospital doctor and killed a patient through lack of care ... (COBUILD)</p> <p>#12. The project was abandoned through (ie because of) lack of funds. (OALD)</p> <p>#13. We've had a poor crop for [from, through] lack of water. = @*(The [A]) lack of water has caused a poor crop. (TG)</p> <p>#14. lack of friends [time, money, food] (TG)</p> <p>#15. lack of sleep [exercise] (KS)</p>
[a N]	<p>#16. @The [A] lack of water has caused a poor crop. (TG)</p> <p>#17. If there is a lack of something, there is not enough of it or it does not exist at all. (COBUILD)</p> <p>#18. There is a lack of people wanting to start up new businesses. (COBUILD)</p> <p>#19. The team has a lack of skill. (RHWD)</p> <p>#20. Her husband has a total lack of common sense. (SN)</p> <p>#21. Rosie was showing a marked lack of interest in her school work. (LDOCE)</p> <p>#22. an attitude showing a lack of sympathy (SN)</p> <p>#23. We aren't having a holiday because of a lack of funds (=money). (CIDE)</p> <p>#24. a lack of confidence/money/support (OALD)</p> <p>#25. a complete/distinct/marked/total lack of (LDOCE)</p>
[∅ Ns]	例文なし

* @印付きの例文はaがオプショナルとされるため、不可算と単数の両方の例文として用いた。

表11は表10から可算性が明確な例文のみを選別し、可算性別に並べたものである。(SHORT-AGEと同様の理由で、LACKにthe、no、所有格、等が共起している例文は除外してある。)なお、例文数が多いため、通し番号を付した。

以下、表11を検討した際の筆者の思考経路を文章化することによって、筆者が悩むところとその理由、および、この限られたデータからどのような一般化を試みたかを明らかにしたいと思う。

1. #1と#2では[LACK of X]が主語の役割を果たしていて、どちらも不可算になっている。#3も主語で、この場合はaがあっても良い(もしくは、aがなくても良い)ということなので、LACKが主語の場合には、不可算にしておけば無難という印象を持つ。
2. #4では[LACK of confidence]が不可算になっているが、#24に目を移すと、同じ[LACK of confidence]が単数になっている。#4ではBE動詞の補語の位置にあるが、この位置にくると不可算になるなどということがあるのだろうか。
3. #5から#13までは、理由・根拠を表わす前置詞(for, through, from)の目的語になっていて、すべて不可算となっている。ここから、少なくともfor, through, fromに続く[LACK of X]は不可算との初期仮説が一応立てることができる。しかし、ひとつ気になるのは、#23で同じく理由・根拠を導入すると思われるbecause ofの後に単数が使われている点である。同じ「Xがないために、..」というような意味でも、for, through, fromとbecause ofではLACKの可算性が異なるのだろうか。この点はXの部分と同じfundsの#23と#12を比較するとさらによくわかる。つまり、#23では...because of a lack of funds(単数)であるのに、#12ではわざわざbecause ofの意味と注がついているthroughで、...through lack of funds(不可算)となっている。もし、この違いが本物ならば、それはなぜなのか。
4. #17、#18はいわゆるTHERE構文で、どちらも単数になっている。さらに#8を見ると、不可算を使用しているfor/through lack ofの書き換えで、because there is a lack ofというTHERE構文があり、そこでも単数となっている。そこで、THERE構文の実質上の主語の位置に[LACK of X]を使うときは単数になるという初期仮説が立てられる。
5. #19から#22では、[LACK of X]は動詞の目的語となっていてすべて単数になっているため、動詞の目的語なら単数という初期仮説が立てられる。

以上がLACKの可算性決定の要因を推測するために辞書の例文を分析した際に筆者が抱いた疑問と初期仮説、およびその根拠である。ここでの初期仮説はこの限られたデータの中にただ反例がないだけのかかなり乱暴な仮説であるが、ここで強調したいのは、辞書を8種類調べてもなお、筆者にはこの程度の仮説しか立てられず、これだけの疑問が残るという点である。辞書の例文からだけで、どういう文脈で不可算[Ø lack of X]を使い、どういう文脈で単数[a lack of X]を使うのかを、推測することは決して容易なことではない。

次に、コーパスデータからLACKの可算性についてわかったこと、および、新たな疑問などを

記す。

4. 2 LACKコーパスデータ

コーパスデータはSHORTAGEと同様にthe Los Angeles Timesの1985年版を利用した。LACKはSHORTAGEと異なり、名詞だけでなく動詞としても同形で使われることもあって、ずっと数が多く“lack” ([\emptyset lack] と [a lack] を含む) による検索総数は4,650文脈、“lacks”は746文脈であった。

上の辞書の分析では、複数lacksはTGで「不足 [欠乏] しているもの」という語義で1つ例があっただけで、しかも、その例は本稿の対象とする「Xの不足」の型での使用ではないため、分析から外したわけであるが、LATデータではどうかまず調べてみた。結果は複数としての用例は（「Xの不足」の条件に合う合わないにかかわらず）1例も見当たらなかった。このことから、LACKを複数で使うことはあっても非常にまれなことが推測でき、ここではlacksのこれ以上の分析は行わない。

一方、“lack”のデータは、残念ながら、筆者が各文脈を確認しながら処理できる量を超えていたので、以下の分析では基本的に、この全体データ（4,650文脈）のうち最初の1,000文脈に対象範囲を狭めて、分析を進めた。なお、この1,000件の中には、動詞のlack, lacks, lacked, lackingや、人名のLackなどが、含まれているので、これらをさらに対象外とした。また、SHORTAGEと同様、LACKに不定冠詞以外の冠詞 (the)、決定詞 (some, any, no)、所有格 (-'s, his, their, etc.) が共起しているものも除外した。その結果、以下の分析の最終的なデータは断わりがない限り、[\emptyset lack], [a lack] の条件にあうものに限定されたものである。(lackに形容詞等の修飾語句があるものはデータに含めてある。)

以下の分析では上記の辞書分析を基に立てた初期仮説および疑問点についての検証を中心に行った。

4. 2. 1 LACKの構造

まず、「Xの不足」という意味でLACKを使う場合のLACKが取り得る構造について、分析したLATデータの範囲では、すべて [LACK of X] の構造で、SHORTAGEのような [X LACK] の構造は1例もみつからなかった。[X LACK] の構造はないとは結論づけられないが、仮にあってもかなり稀なものと推測できるので、以下のLACKの分析では [LACK of X] の構造のみを扱うことにする。

4. 2. 2 主語

上で、LACKが主語の場合には、不可算にしておけば無難という印象を持つと述べた。まず、[LACK of X] が主語の例を探すと、全部で50件あった。この中には文中にある主語の例も含まれている（例：Speedy guards are a team strength but lack of height is a weakness.）。これら

の可算性別の内訳は不可算が38例、単数が12例であった（ただし、このうち、見出しの一部となっている例は、不可算が8例、単数が1例あった）。確かに、単数は不可算より数は少なかったが、例外的とみる程の少なさでもなさそうである。もし、単数の使用も例外的でないとすると、[∅ lack of X]と[a lack of X]の違いや、使用上の制約は何かという疑問が意義をもつことになる。

LATデータを分析してみると、Lack of funds has nearly closed the museums and stripped security at sites.やA lack of funds has hindered Ventura's agricultural land trust, McPhail said.のように、Xが同じfundsでどちらも「資金不足」と訳せるものでも、一方は不可算[∅ lack of funds]、他方は単数[a lack of funds]というようなペアも見つかった。はたして、これらの文脈における、可算性の選択が絶対的なものなのか、不可算と単数の間に明確な意味の差があるのか、など疑問は尽きないが、残念ながら少なくとも筆者の現在の分析では、コーパスデータからこの種の答えはでてこない。第二部で母国語話者のデータをもとに分析を試みたい。

4. 2 BE動詞の補語

[LACK of X]がBE動詞の補語になっている例は30例あったが、そのうち16例は不可算、14例が単数、という結果であった。辞書ではLACKがBE動詞の補語の場合には、不可算になっていたわけだが、不可算、単数の両方が可能ということになる。しかも、このコーパスデータが示す限り、どちらか一方が明らかに高頻度ということはないので、どちらを使えば無難ということも言えず、むずかしい判断となる。

今、問題にしている文構造を、[Y is LACK of X]と形式化すると、XもしくはYがLACKの可算性に関連しているのではないかと考えてみたくなる。しかし、筆者が見た限りにおいて、どちらの要素にも決定的なものには見えなかった。例えば、Xが同じtimeでも、LACKは次の例文のように、不可算[∅ lack of time]にも、単数[a lack of time]にもなっている。

- Research indicates that the chief reason people don't exercise is lack of time, she said¹⁰.
- "The biggest stumbling block was a lack of time."

また、Yについても、

- Another problem is lack of discrimination.
- The problem, apparently, is a lack of common sense by the schools.

のように、同じproblemが主語になっていても、LACKは不可算にも、単数にもなっている。

このように、XがこうならLACKは単数、YがこうならLACKは単数、式の一般化は少なくとも筆者にはできなかった。

4. 3 前置詞の目的語

上では[LACK of X]が理由を表わす前置詞for, through, fromの目的語になっているなら不可

算との初期仮説を立てた。(ただし、同じ理由を表わすbecause ofの目的語の場合には単数になっている例もあった。)

まず、forについてLATデータをみると、[for LACK of X] の条件にあうものが、計75例あった¹¹。可算性の内訳は、不可算 [for \emptyset lack of X] が64件、単数 [for a lack of X] が11件であった。初期仮説の反論となる単数の例をみると、3つのグループに分けることができる。

1つ目は、上記の辞書の例文とは明らかに性格が異なるもので、Baugh dismisses those who criticize him for a lack of experience in local politics or community service.のように、criticize, attack, bring down, cite (動詞) との組み合わせで、[動詞 (V) + 目的語 (O) + for a lack of X] の型を作り、「Xが不足・欠如しているという理由で、OをVした」の意味になるケースが6件あった¹²。これは、この型に当てはまる場合のLACK of Xは単数という新たな初期仮説を生む¹³。少なくともその反例はデータ中にはみあたらなかった。

2つ目のグループは、He comes across as so tenacious you think that's to make up for a lack of creativity.のように、イディオム表現 ([make up for a lack of X]) の一部と考えられるもので、これが2件あった¹⁴。ここから筆者はmake upの後の [LACK of X] は単数になるかと考えたが、LATデータにはEnthusiasm would make up for lack of experience, I figured.の反例があり、make up forの後ということで一概には言えないことがわかった。

最後のグループ (3例) は、上記の2つのグループと異なり、筆者には辞書の例文と同一の用法にみられるもので、従って、不可算を予想する文脈であるが、なぜか単数が使われていた例である。

- The Latvian native wasn't on anybody's all-defender team, though. But it wasn't for a lack of effort.
- According to the latest poll, one in five voters remained undecided—and not for a lack of effort¹⁵.
- But the buyout faltered for a lack of financing¹⁶.

次に、throughについては、LATデータ中に1件しかみつからなかったが、辞書の例文と同じく不可算の例であった。

さらに、fromについては、LATデータ中に11件あり、そのうち3件は辞書情報通り、不可算であったが、残り8件は反例となる単数であった。

以上、少なくともforとfromについては、辞書の用例を基にした初期仮説に対する明らかな反論とみられる例文が見つかったことになる。

最後にbecause ofをみると、[because of LACK of X] の条件に合致した40件のうち、29件は辞書の情報と同じく単数 [because of a lack of X] であったが、11件は不可算 [because of \emptyset lack of X] であった。その中には次の例のようにXの部分が全く同じ (funds) でありながら、LACKが不可算にも単数にも使われているものもあった。

- The governor's work program, which has been fully in place since Jan. 1, saves

taxpayer money that would have gone to private contractors and gives communities the chance to complete projects that languished because of lack of funds.

- “Because of lack of funds, the schools have had to cut their music program,” DeCarlo said in an interview.
- How long will the county and cities have to postpone capital projects such as new streets, jails and courthouses because of a lack of funds?
- He would also like to make better use of the temple’s tea ceremony room, complete with tatami mats, which is used infrequently because of a lack of funds.

はたして、[because of LACK of X] のパターンで、母国語話者はこのように使い分けているのか、もしそうなら、単数と不可算の使いわけはどのような意味の差異化をおこなっているのか、など、第二部でさらにデータを集めて検討してみたい。

4. 4 THERE構文

上では辞書のデータを基に、THERE構文の実質上の主語の位置に [LACK of X] を使うときは単数になるという初期仮説を立てた。LATデータには41例のTHERE構文が見つかったが、そこでの [LACK of X] は初期仮説どおり、すべて単数が使われていた。このことから、THERE構文では仮に不可算があってもかなり例外的といえるのではないかと推測できる。

4. 5 動詞の目的語

上では、[LACK of X] が動詞の目的語なら単数という初期仮説を立てた。しかし、LATデータには不可算の例は少なくとも16例みつかった（ただし、うち2例は見出しの一部なので、不可算の積極的な例とはならない）。不可算の例をいくつか挙げる。

- Others saw the investigators’ decision not to arrest the two men immediately, citing lack of evidence, as proof that the authorities were paid to drop the matter.
- Under league rules, teams are not supposed to move unless they show lack of fan support, among other things.
- Union members picketed about three weeks ago to protest lack of progress on a new contract.

一方、単数の例は35例あった。興味深い点は、同じ動詞でも、LACKが不可算にも単数にもなる例があったということである。例えば、上記の最初の2例との比較で以下を参照されたい。

- Susan Reynard of St. Petersburg, Fla., died from brain cancer. A judge dismissed a suit blaming the makers of her pocket phone, citing a lack of scientific evidence.
- Members of a district parents’ committee say a majority of Oxnard elementary school teachers show a lack of commitment to students by living outside city limits.

特に、citeの目的語として使われている2例を比較すると、(scientificという形容詞の有無の差は

あるが) [LACK of X] のXまでが同じevidenceであるにもかかわらず、LACKの可算性は前者が不可算、後者が単数と異なっている。残念ながらこれらの差の違いがどのような意味を持つのか、現時点ではわからない。

なお、showは [LACK of X] を目的語にとる動詞の中で最も頻度の高い動詞であったが、(見出しの一部となっていた1例を除くと) 計13例のうち、12例は単数で、不可算は上記のわずか1例のみという内訳であった。このことから動詞によっては、初期仮説とは逆の単数をとるという傾向の動詞がある可能性もある。

以上、LACKの可算性について辞書情報を基に筆者がたてた初期仮説をコーパスデータに照らして検証してみたが、ほとんどの場合、初期仮説に対する反例が見つかる結果となった。不可算と単数の場合の使い分けがどのような意味やニュアンスの差異を生むのかという核心の問題の解明には至らなかったが、明らかになった具体的な疑問点・問題点について第二部の母国語話者のデータを基にさらに分析を進めたい。

5 まとめ

「Xの不足」と英語で表現しようとする時、話者が行う選択は次のような3つのレベルを想定することができる。

1. 名詞選択 (noun selection) のレベル:

SHORTAGEを使うかLACKを使うかの選択。

2. 名詞構造選択 (noun structure selection) のレベル:

1の名詞選択のレベルで、SHORTAGEを選択した場合は、[SHORTAGE OF X] と [X SHORTAGE] のどちらかの選択となる。もし、LACKを選択した場合は、構造的には選択の余地無く自動的に [LACK OF X] を選択することになる。

3. 名詞可算性選択 (noun countability selection) のレベル:

2の名詞構造選択レベルで選択した名詞構造でのSHORTAGEもしくはLACKの可算性を選択する。例えば、[SHORTAGE OF X] を使うことにした場合は、SHORTAGEを不可算 [∅ shortage] にするか、単数 [a shortage] にするか、それとも複数 [∅ shortages] にするかを選択。

第一部の分析から明らかになった点をまとめると、まず、日本語では同じ「Xの不足」と訳される場合でも、名詞選択のレベルで、SHORTAGEを選択するかLACKを選択するかによって、その後の選択が、つまり、名詞の構造においても、可算性においても、必ずしも同じでないことがわかった。特に、SHORTAGEの場合には2つの構造が存在し、しかもそれらがほぼ同じ頻度で使われており、どちらの構造を選択するかによって、使用される可算性の頻度がかなり明確に異なるということが明らかになった。また、多くの辞書の情報からはSHORTAGEは不可算にも可算にも使われるという印象をうけるが、少なくとも本稿が分析した限られたデータを見る限り、基本的には、SHORTAGEは可算(非不可算)という実態が浮かび上がってきた。

第一部では辞書とコーパスのデータを中心にLACKとSHORTAGEの可算性選択にまつわる疑問点を検討してきた。第二部では母国語話者の判断データを基にそれらの疑問点の解明を試みた。

参考文献

- 小寺正洋 (1995). 「辞書に見る可算／不可算表記の問題点」 英語学論説資料第4分冊増刊 259-265.
正保富三 (1996) 『英語の冠詞がわかる本』 研究社
Berry, R. (1993). *Collins COBUILD English Guides 3: Articles*. London: HarperCollins.
Peter Master (1986). *Science, medicine, and technology*. New York: Prentice Hall Regents.
Quirk, R. S., Greenbaum, S., Leech, G., & Svartvik, J. (1985). *A comprehensive grammar of the English language*. London: Longman.

参照辞書

- Longman Dictionary of Contemporary English. 3rd Ed. (1995). Longman.
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. Fifth Ed. (1995). Oxford University Press.
Collings Cobuild English Dictionary. Second Ed. (1995). HarperCollins Publishers.
The Cambridge International Dictionary of English. (1995). Cambridge University Press.
Random House Webster's Dictionary of American English. (1997). Random House.
三省堂・ニューセンチュリー英和辞典 (初版) (1989). 三省堂
大修館・Genius英和中辞典 (第2版) (1994). 大修館
研究社・新英和中辞典 (第6版) (1995). 研究社

注

- ¹ 例えば、PROGRESSという名詞が不可算であり、形容詞がついても a はつかない (正保1996、他)。
² COBUILDによるこの語の説明は以下の通り。
A variable noun typically combines the behaviour of both count and uncount nouns in the same sense (see N-COUNT, N-UNCOUNT). The singular form occurs freely both with and without determiners. Variable nouns also have a plural form, usually made by adding -s. Some variable nouns when used like uncount nouns refer to abstract things like *hardship* and *injustice*, and when used like count nouns refer to individual examples or instances of that thing, e.g. *He is not afraid to protest against injustice ... It is never too late to correct an injustice. ... the injustices of world property*. Others refer to objects which can be mentioned either individually or generally, like *potato* and *salad*: you can talk about *a potato, potatoes, or potato*.
³ 単数 [a N] の最後の2例 (a shortage of fifty dollars. (RHWD) と a shortage of ten tons (SN)) は、構造上は [SHORTAGE of X] であるが、Xの内容はどれだけの数・量が不足しているかであり、何が不足しているかを表わしているという点で他とは性質が多少異なる。この構造はPeter Master (1986, 71-72) のいう measurement nounsを使った dimension statementsのType 4に相当するもので、その構文では、一般に a が使われることが指摘されている。
⁴ 表2のLDOCEの記述には water/gasoline/bread etc shortage と形は [ø N] だが、これはSHORTAGEがここである [X SHORTAGE] の構造を取り得るということを示す小見出しのような性格のものと筆者は解釈し、不可算の例とはしないこととした。実際、この小見出しに続く例は water shortages in the

summerと複数になっている。

⁵ 計算には注意を払ったが、手作業で数えたため、多少の誤差がある可能性があるので、これらの件数はあくまでおおまかな目安として理解していただきたい。

⁶ 不可算 [ø shortage of X] の4例は以下の通り。

- It is NOT a matter of **shortage** of funds but the wrong set of priorities!
- Key issues: Wants to deal with **shortage** of open spaces and parks in the city.
- Eric Eber Villanueva, a PRD colleague in the Chamber, added: "The Mexican economy has gone in this circle: **Shortage** of money, contraction of the economy, bankruptcies of businesses, unemployment, poverty, economic instability, political instability, social instability--all getting worse by the day since Dec. 19 (when the latest economic crisis began).
- Charity: Red Cross president cites severe **shortage** locally of the ethnic group's primary type.

⁷ there構文でXが1項目 ([there BE SHORTAGE of A]) で、SHORTAGEが複数であったのは次の2例。

- However, availability may be hit harder than price, Maresh said. Imports are ordered months before they actually arrive and are limited in number. If there's a huge demand for European makes because traditional buyers of Japanese luxury cars are priced out of that market, there could be **shortages** of certain popular alternatives.
- "The application which could begin now is to speed up breeding programs in trees. We want better, more ecologically sound sources of paper now, not in 100 years. There also are huge **shortages** of timber.... If we could find ways to develop better trees agriculturally and grow them, we would not have to cut down the old forests we have now."

⁸ この文は次の通り。

A Sespe reservoir "could be the difference between water **shortage** and no water shortage in Ventura County," he said. "This county needs to develop long-term plans."

⁹ この3件は以下の通り。

- Caption: Photo: COLOR, Joe Magelano, left, leads inmates in schoolwork. Some sessions have been cut due to staff **shortage**.
- Medicine: New federal rule allows each state to sponsor as many as 20 foreign physicians, provided they meet licensing requirements and agree to practice in rural areas, where doctor **shortage** is chronic.
- The 1980s developments were widely labeled "capital **shortage**," but the alarm has been muted in the 1990s thus far because of the economic slowdown in developed countries.

¹⁰ 一人のネイティブスピーカー（米語）によると、この例文での [ø lack of time] はアンケート等で与えられている回答の選択肢の一つとしてとらえているからなのではないか、という貴重なコメントがあった。第2部でこれがどの程度一般的なものか検証してみたい。

¹¹ ここでは、LACKに形容詞がついていないもののみを対象にした。

¹² 他の5例は以下の通り。

- It criticized Santa Ana for a **lack** of "cultural adaptation" resulting from a large number of residents speaking Spanish in their homes.
- Though the male-female anchor partnership was intended to modernize the report and help lift ratings, the popularity of the show fell and critics attacked Chung for a **lack** of aggressive reporting and a soft news style.
- Temple was sharply criticized for a **lack** of leadership and involvement in daily operations of the blood bank, Civil Service documents and internal memos show.
- The NCAA cited the university for a **lack** of institutional control in its athletic programs.
- Swank chairs the most powerful group, the Committee on Infractions, eight school representatives

who recently brought down Alabama for a lack of institutional control but inexplicably went light on Cal, which the committee said lacked control but really didn't intend to.

¹³ この点を確認する意味で、あるの母国語話者（米語）に

(A) She criticized him for lack of patience.

(B) She criticized him for a lack of patience.

の2文を与えて、もし両者の間に意味の違いがあれば、説明するよう依頼したところ、次のようなコメントを得た。

My response: The first is definitely her lack of patience and the second is definitely his lack of patience.

しかし、続いて尋ねた2名の母国語話者（米語）は、この意見とは異なり、(A)も(B)も his lack of patienceの意味に解釈するであろうとのコメントを得た。

¹⁴ もう1例は次の通り。

But does such intensity make up for a lack of size? OK, it does. But it doesn't make you big.

¹⁵ この反例として次の文がLATデータ中にあった。

But should he fail in that quest, it won't be for lack of effort.

¹⁶ この反例として次の文がLATデータ中にあった。

Clarke said it easily could falter for lack of money. No one particularly wants to foot the bill and the future of state and federal financing is uncertain.